

ADCA活動報告

ODA 現地タスクフォースとの意見交換 ウガンダ現地調査

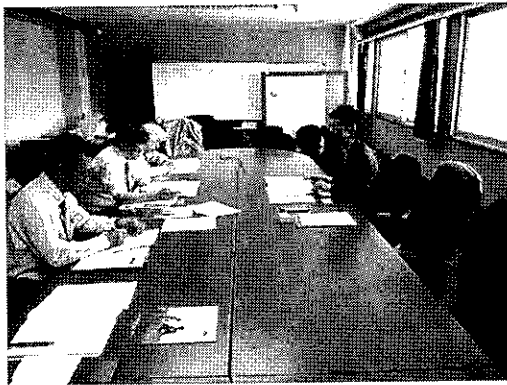
ADCA では、プロジェクト・ファインディング調査を効果的・効率的に実施するために必要な情報を収集することを目的として、平成 18 年度より ODA タスクフォースとの意見交換を実施している。本年度は、平成 22 年 2 月 13 日から 2 月 20 日までウガンダに調査団を派遣し、ODA 現地タスクフォースとの意見交換や情報収集を行い、案件形成の際の留意点等を整理した。

本調査では、ODA 現地タスクフォースである在ウガンダ日本大使館、JICA ウガンダ事務所を表敬し、情報収集及び意見交換を行うとともに、ODA 現地タスクフォースとの合同ミーティングを行った。また、ウガンダ政府機関である農業畜産水産省、水・環境省、国立作物資源研究所 (NaCRRI)、また、国際機関である世銀ウガンダ事務所、FAO ウガンダ事務所を表敬し、情報収集及び意見交換を行った。さらに、日本のプロジェクト方式技術協力が実施されている「ネリカ米振興計画」の現地を視察した。

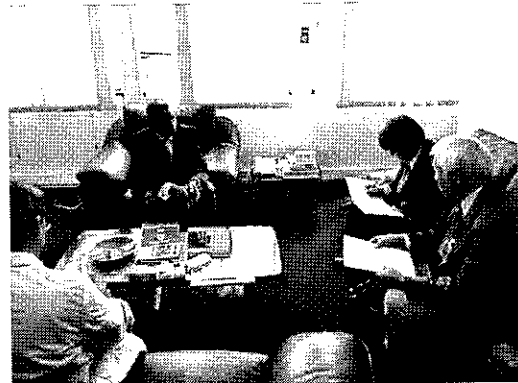
ウガンダにおける ODA 現地タスクフォースは、ODA タスクフォースは在ウガンダ日本大使館、JICA ウガンダ事務所で構成されており、その他、意見収集方法として、有識者会議を適宜実施している。このタスクフォースによる日本国の援助の現状については、経済協力政策協議およびプロジェクト確認調査での先方政府との協議をふまえた上で、(1) 人的資源開発 (教育、職業訓練など)、(2) 基礎生活支援 (保健・医療、水供給、環境など)、(3) 農業開発 (コメ振興、農産物付加価値向上など)、(4) 経済基礎インフラ (道路、電力など) の 4 つの重点分野としている。しかしながら、その方向性については、今後 ODA の大方針そのものが変わる可能性があり、その大方針に則って、援助方針が決定されていく予定であるとのことである。

本調査によって明らかなった今後のウガンダにおける援助の方向性や、案件形成を行う上での留意点としては、以下が挙げられる。

- ① 農業セクターの援助の現状及び今後の方向性: H17 までは、稲作を重点的に実施
- ② ADCA プロファイの実施の際の留意事項: コメに関する種子供給、営農、栽培技術などといった生産段階および、溜池を活用した灌漑インフラの整備、生産から消費者までのバリューチェーンの構築への技術協力
- ③ ウガンダにおける案件形成の際の留意事項: 湿地の有効活用 (内陸小低地) をすべきであること及び開発と保全のハーモナイゼーションに向けた水環境省との調整



ODA 現地タスクフォースとの合同ミーティング



FAO ウガンダ所長との打合せ

農業農村開発戦略検討調査 セネガル現地調査

ADCA では、国際機関との連携を踏まえた効果的・効率的な農業・農村開発協力の実施のための基本方針の検討に必要な情報を収集することを目的として、平成 17 年度より農業農村開発戦略検討調査を実施している。

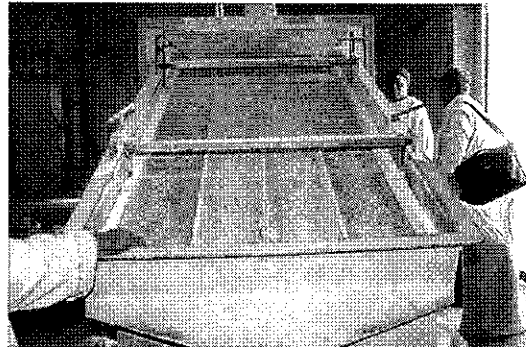
本年度は、3 月 13 日から 20 日までセネガルへ調査団を派遣し、農業・農村開発に関する経済協力の基本方針の検討に必要な情報を収集した。

本調査では、セネガル政府機関であるセネガル河流域整備開発公社（SAED）、国際機関であるFAOセネガル事務所、世銀セネガル事務所、日本の関係機関である在セネガル日本大使館、JICAセネガル事務所を表敬し、情報収集及び意見交換を行った。また、日本の無償資金協力が実施された「デビ地区灌漑改修計画」の現地を視察した。

デビ地区灌漑地区は、セネガル下流のデルタ地域に位置し、1981年にセネガル河流域整備開発公社（SAED）によって、約730haの耕地が開発されポンプ灌漑などが整備された。しかしながら、塩害の被害や、機材・施設の老朽化に伴い、一時、機能が低下し農業生産が低迷してしまった。このような状況の下、セネガル国政府は、同地区の生産性の改善・拡大と、農家所得の向上を目的として灌漑施設の改修を計画し、日本国政府に無償資金協力を要請し同計画が実行された（1994～1995）。これらの事業により、営農体型及び生産性の向上、農民組織及び普及、農業及び農村施設の改善等の目的が十分達成されたことを現地視察を通じて実感したが、同時に、今後においては、老朽化した灌漑施設の復興整備、収穫後処理施設の整備及び運営体制の強化、流通インフラの整備及び市場情報の提供等の必要性があること明らかとなった。



国際食料農業機関（FAO）セネガル事務所
との意見交換



碎米選別機（稲作再編計画-JICA-プロジェクトで
導入された）タイ製

開発途上国における農業農村開発戦略セミナー

2009年12月11日に農業土木会館において、“アフリカへの挑戦～農業・農村開発の視点から～”をテーマとした「開発途上国における農業農村開発戦略セミナー」が開催された。

セミナーでは、国際半乾燥熱帯作物研究所（ICRISAT）のWilliam D Dar 所長に「アフリカの挑戦とICRISAT イニシアティブ」と題して基調講演を行って頂いた。さらに、東京農業大学の髙橋教授に「アフリカ農業・農村開発の視点」と題して、国際農林水産業研究センター藤井秀人主任研究員に「西アフリカ内陸小低地における水田稲作適性の評価」と題して、さらに、日本工営株式会社の神山雅之氏に「セネガル米セクターの課題と可能性」と題して、特別講演を行って頂いた。講演後の意見交換では、近畿大学の八丁信正教授をモデレーターに活発な議論が交わされ、今後のアフリカにおける農業・農村開発の視点、方向性などについて知識を深める有意義な場となった。多忙の中ご出席頂きました皆様には、ご感謝申し上げます。



セミナー会場風景

ADCA 通常総会・理事会の開催

2010年5月24日にADCA第66回理事会が開催、第34回通常総会され、理事及び監事が選任された。続いて、第67回理事会が開催され、会長が互選された。

また、会議終了後には、懇親会が開催され、佐藤前会長、農村振興局海外土地改良技術室内藤室長、JICA 高島理事から来賓のご挨拶を頂いた。懇親会には、40名以上の方々にご参加頂き、関係者間の交流を深める有意義な場となった。ご多忙の中ご出席頂きました皆様には、感謝申し上げます。

なお、新役員は以下の通りである。

職名	氏名	新/再任
会 長	青山 咸康	新任
副 会 長	久野 格彦	再任
理 事	小島 莊明	再任
理 事	村井 浩	新任
理 事	望月 久	再任
理 事	横澤 誠	再任
監 事	千葉 俊彦	新任



第34回通常総会



懇親会